

「ピンクリボン」推進へ



藤田事務局長に寄付金を手渡す馬場
会長(左)―高松市古新町

国際ソロプチミスト高松が寄付金

乳がんの早期発見や治療の大切さを訴える「ピンクリボン運動」を支援しようと、国際ソロプチミスト高松(馬場久美子会長)は24日、ピンクリボンかがわ県協議会(久米川啓代表)に寄付金を贈った。

同団体は1962年に発

足。「女性と子どもの生活向上」に視点を置き、乳がん検診の促進運動や、DV防止のための街頭活動などの奉仕活動を行っている。

今回は、先月に同団体が行ったチャリティー映画会の収益金から10万円を同協議会に寄付した。

高松市内のホテルで行われた贈呈式では、同団体の馬場会長が同協議会の藤田純子事務局長に寄付金の目録を手渡した。寄付金はリーフレットやグッズ作成など、乳がん検診の啓発活動に充てる計画で、藤田事務局長は「リスクが高まる35歳以上はもちろん、若い世代にも受診を呼び掛けていきたい」と話した。